

# 平成31年度 学校自己評価システムシート ( 県立大宮工業高等学校 全日制 )

目指す学校像	人間性豊かな、地域産業を担う職業人の育成
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る</li> <li>自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する</li> <li>物事を探求できる力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する</li> <li>協働教育による開かれた学校づくりを推進する</li> </ol>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	7名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						学校関係者評価		
31年度目標						31年度評価(2月3日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	今年度の評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
実施日 令和2年2月12日								
						学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	<p>【現状】授業や資格取得に対して主体的に取り組む生徒は増加傾向にあるが、自発的な学習に取り組む生徒が少ない。</p> <p>【課題】主体的・対話的な言語活動の伴う授業や、資格取得に積極的に取り組める環境を整え、学習意欲の向上と共に、自ら考える力を引き出す必要がある。</p>	<p>学習意欲の向上を目指した授業改善を図る</p> <p>資格取得に向けた指導の充実を図る</p>	<p>①学力養成委員会と学年が連携し、生徒の実態に合わせた課題と学習形態を検討し実施する。</p> <p>②各教員が、「主体的に対話的な深い学び」を引き出す授業に取り組み、実践内容を踏まえ教員研修会を実施する。</p> <p>①各教科・学科が、資格取得に向け補習等を計画的に実施し、充実させる。</p> <p>②各教科・学科は、生徒や保護者に対し積極的に資格取得に関する情報を提供する。</p>	<p>①生徒アンケートで、「自主学習することが習慣化している」が前年度(23%)より上昇したか</p> <p>②生徒アンケートで「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が前年度(73%)より上昇したか</p> <p>①生徒アンケートで「資格取得が充実している」が前年度(77%)より上昇したか</p> <p>②資格取得に向けて、取り組む生徒が前年度に比べて上昇したか</p>	<p>①今年度は27%と昨年度より4%上昇した。過去5年間で最も高くなった。関連して朝学習への取組姿勢についても48%(昨年39%)上昇した。</p> <p>②今年度は77%と昨年度より4%上昇した。過去5年間で最も高くなった。学習に向かう姿勢は全体的に向上している。</p> <p>①今年度は79%と昨年度(77%)と比べてほぼ横ばいであった。過去5年間では最も高かった。</p> <p>②「資格取得に向けて積極的に挑戦している」が今年度は56%と昨年度より5%上昇した。情報提供の方法の工夫に関する要望があった。</p>	A	<p>全体的に生徒が学習に向かう姿勢は向上傾向にある。次年度は生徒がより主体的に学習に取り組めるよう、朝学習を含め学習の仕組みを検討する必要がある。また、「主体的に対話的な深い学び」の定着を目指し、計画的に教員研修を行い、授業改善を図りたい。</p> <p>各教科が計画的に資格指導に取り組み、生徒は積極的に挑戦している状況である。資格試験に関する資料の配布と合わせ、ホームページなどを活用した、資格取得に関する情報提供の方法を検討したい。</p>	<p>・学習の習慣化を図る取り組みを継続してもらいたい。</p> <p>・学習意欲などの項目が、他校との比較ではないため、評価指標の妥当性が評価しにくい。難しいと思うが、共通する項目で他の工業高校との比較ができないか。</p> <p>・教職員全体としての取り組みとなるように、教員の意識改革のための教員研修会の必要性があると思われる。</p>
2	<p>【現状】昨年は遅刻者数が増加し、基本的な生活習慣の改善が求められる。また、他者や社会にとの関わり方に課題を抱えた生徒がいる。</p> <p>【課題】基本的な生活習慣の改善と規範意識の醸成を図るため、教育活動全体をととした指導を行うことが必要である。</p>	<p>基本的な生活習慣の定着および、自己肯定感の醸成を図る</p> <p>5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の定着を図る</p>	<p>①生徒指導部と学年が連携し、遅刻防止指導を組織的に行う。</p> <p>②生徒指導部通信を活用し規範意識の醸成を図り、学校を誇りに思える生徒の育成を行う。</p> <p>①特別支援教育委員会を中心に、自己管理能力の育成に努める。</p> <p>②5S活動の定着を図るため、生徒会を中心とした諸活動において啓蒙活動を実施する。</p>	<p>①年間遅刻数が前年(1252人)を下回ったか</p> <p>②生徒アンケートで、宮工を誇りに思えるとの回答が70%を超えたか。</p> <p>①生徒手帳の活用調査で、行事や授業における活用状況割合が50%を超えたか。</p> <p>②生徒アンケートで5S活動に取り組めたとの回答が60%を超えたか。</p>	<p>①年間の遅刻者数は昨年度より延べ147人減少(約15%減少)した。</p> <p>②今年度は65%と昨年度(67%)と若干下回り、70%を超えることができなかった。</p> <p>①生徒手帳の活用状況は31%と昨年度より5%下降した。</p> <p>②5S活動への取組が今年度は65%と昨年度より9%上昇した。また、交通ルールやマナーを守っているが9割(昨年6割弱)を超えた。生徒の規範意識の向上がうかがえる。</p>	B	<p>毎月の遅刻防止週間や学年の遅刻指導、朝学習の定着により、基本的な生活習慣の向上が見られる。次年度は、更なる改善を図り、規範意識を醸成するために、生徒指導部通信の活用や全校集会などにおいて取り組みの重要性を伝えていきたい。</p> <p>生徒による自己評価の手法と生徒手帳の効果的な活用法を検討し、自己管理や課題解決能力の醸成を図りたい。また、5S活動週間の定着が見られる中で、より質の高い取り組みとするために、他校の先進的な事例を参考にした活動を実践していく。</p>	<p>・5S活動については、他校の先進的な取り組みと、本校の取り組みの違いを整理し、よりよい活動に発展させてもらいたい。</p> <p>・遅刻数の減少は、学習意欲の向上が図られると思われるので、取り組みを継続してもらいたい。</p> <p>・生徒の基本的な生活習慣の改善のためにも、生徒手帳の活用状況の改善を図る手法を検討してもらいたい。</p>
3	<p>【現状】進学、就職の進路状況は充実しており、自己実現に向けて行動力を持った生徒が増加する兆しがある一方、計画力に乏しい。</p> <p>【課題】自己実現に向けて継続的に取り組む態度を身に付けた、社会性のある人材の育成が求められている。</p>	<p>社会人基礎力の向上を図る</p> <p>地域の教育力を活用し勤労観の醸成を図る</p>	<p>①学習活動や部活動、学校行事とおして、考え抜く力(課題発見力、計画力、創造力)を育成するために、計画的に取り組む。</p> <p>②各教科・学科と学年は、学校における諸活動を通じて、生徒が将来の目標に向けて前に踏み出す力の育成を図る。</p> <p>①進路指導部、体験活動委員会が中心となり、学年と連携しインターンシップや進路ガイダンス、外部講師による講話などを実施する。</p> <p>②各教科・学科と学年は、生徒の活動の成果を発信する機会をつくり、表現力や傾聴力の伸長を図る。</p>	<p>①生徒アンケートで委員会活動や部活動、学校行事へ積極的に参加したかが70%を超えたか</p> <p>②部活動加入率の向上や資格取得に取り組んだ者、または取得者が増加したか。</p> <p>①進路実現に対する意識が強くなり、進路行事に積極的に参加する生徒の割合が80%を超えたか。</p> <p>②課題研究発表会やインターンシップ発表会などを、他学科や他学年、外部向けに実施できたか。</p>	<p>①委員会活動等は72%(昨年度74%)、部活動は63%(昨年度67%)、学校行事は87%(昨年度88%)と全体的に若干下降している。</p> <p>②部活動加入率は82.8%(昨年度83.1%)はほぼ横ばいであった。資格取得に関しては、工業科および普通科の資格に挑戦する生徒が増加傾向にある。また、新たな資格取得に向けての取り組みを行う教科もあり、指導の充実が図れた。</p> <p>①「適切な進路指導が行われている」が83%(昨年度80%)と上昇したが、「進路行事に積極的に参加している」が35%(昨年度43%)と下降した。</p> <p>②工業全学科が、課題研究発表会を他学年向けに実施した。また、保護者や他学科の教職員向けにも実施した。</p>	B	<p>資格取得に関しては堅調であり、今後も生徒の自己実現を支援するために資格取得指導に注力したい。特別活動では学校生活の充実を図るために、部活動や学校行事への積極的な関わりを促す支援を行っていききたい。</p> <p>進路行事に関しては分掌ならびに学年において計画的に実施をし、就職試験の合格率も高い水準を維持し堅調である。今後も継続するために、勤労観や職業観の醸成のために、インターンシップや課題研究発表会を含めた諸企画の実施を継続していく。</p>	<p>・生徒手帳の形式は本校独自のものであり、生徒が社会人としてのスキルを向上させるためには有用なものであると考えるが、活用の方法や場面の設定を適切に行い、高校生活全体で活用するよう工夫を求めます。</p> <p>・民間企業では年度の初めに、1年間または3年間の目標を設定する「キャリアアップシート」のようなものを作成しているところもある。高校でも導入を検討してもよいのではないかと。</p> <p>・生徒の「チームで働く力」の育成を図るために、今後取り組みを検討してもらいたい。</p> <p>・インターンシップは受け入れ企業からの評価が高い。生徒のキャリア教育の観点からも、来年度以降も継続してもらいたい。</p>
4	<p>【現状】地域、企業との連携による協働教育は浸透しつつある。一方、情報発信が少なく、本校の魅力を十分に伝えられていない。</p> <p>【課題】地域と学校の信頼関係の深化を図り、地域とともに人材を育成する協働教育を一層推進する必要がある。</p>	<p>学校が地域社会に貢献する取り組みを実践し、学校への理解を深め必要性が高まるよう努める</p>	<p>①地域と連携した取り組み(チャレンジスクール、出前授業等)を実施し、地域社会とのつながりを深める。</p> <p>②各分掌、部活動等はホームページの更新やその他刊行物の定期的な発行・配布など広報活動を積極的に行い、学校の魅力を発信する。</p>	<p>①地域との連携を深める取り組みを年5回以上実施できたか。</p> <p>②学校説明会や学校行事等への来校者数が増加したか。</p>	<p>①チャレンジスクールや出前授業を延べ21回、また、文化祭においてさいたま市商工会議所ならびに浦和野野雇用対策協会、県内企業と連携し体験講座を実施した。さらに、地域の児童館との交流(延べ8回)や地元自治会へのベンチの寄贈を行った。</p> <p>②学校説明会等への参加者数は昨年度より微増であった。ホームページの更新は、年間196回行った。学校の広報誌の刊行は行うことができなかった。</p>	B	<p>出前授業等による地域との連携や学校説明会等の生徒募集行事は、学校への理解を深めることに成果を上げておりと考えられる。一方で企画運営に際して教職員の負担が大きく、一部の業務に影響が出ている。教職員の負担軽減を図るために、実施内容の精査を含めた検討を継続的に行う必要がある。</p>	<p>・地域の公民館での体験活動や清掃活動、避難所訓練などを通じて、学校が近く感じられるようになった。これからも継続してもらいたい。</p> <p>・取り組みの回数を評価するのみではなく、取り組みの結果、地域とのつながりがどのように変化したのかを分析して評価するようにもいいのではないかと。評価の手法は難しいが、学校がより良くなるためにも検討してもいいのではないかと。</p>